

患話休題

かんわきゅうだい



院長
真崎 雅和



新しい抗がん剤

私たちの体は免疫という働きで保護されています。細菌やウイルスを含む外から入ってくる毒性体のみならず、体内で生じる良くない変化に素早く的確に反応し、それを除去してくれています。今のように医学が十分でない太古の昔から現在まで生物が生き残ってきたのは免疫機能のおかげといえますし、医学の発展とは免疫機構を補強してきた歴史といえるでしょう。

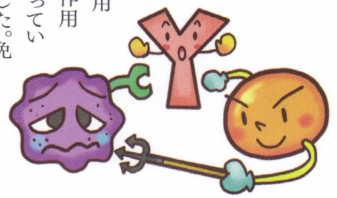
生物の体のほとんどは古い細胞が壊れ新しい細胞に生まれ変わることを繰り返しています。この段階でときには不良品も生まれます。大まかにいえばがん細胞が時々生産されているといえます。免疫機構は正しい自分と正しくない自分を見分けることができるので、正しくない自分をすぐに捉え、その細胞を死に導いていきます。従って免疫機構が正しく働いていればがんはできない、残らないということになります。

では一体、なぜがんができるのでしょうか。多くの学者は、「がん細胞は忍者のように自分が悪者であることを免疫機構に分からないように隠れるすべをもっている」「がんの発達のスピードが速くて免疫が追いつかなくなる」と考えていました。そのため、今までのがん治療は毒をもって毒を制するように、細胞分裂を傷害する抗がん剤を投与したり、放射線で焼き切ろうと

してきましたが、十分な効果は得られませんでした。

ところが、最近免疫機構ががん細胞にも作用

していることや、その作用を打ち消す働きが起こっていることが分かってきました。免疫機構に限らず生体反応には攻撃する側と、それを抑制する側と、それらを調整する機構があります。働き過ぎれば抑制が働くというのが自然であることは想像が付きますね。がん細胞は、自分をチェックに来た偵察細胞を弱らせたり、がん認識して攻撃用細胞をつくつたのに、調節機構にも十分攻撃細胞があるがごとき嘘の情報を通して抑制的な反応を強くしていることが分かってきました。これら免疫の攻撃性と抑制性を転換させる部分のことを免疫チェックポイントといい、それを阻止する免疫チェックポイント阻害薬、つまりがんに対する免疫を弱めないという抗がん剤ができてきたのです。ただ現時点では、全てのがんに効果があるわけではなく、多剤との併用や、副作用など解決されるべき問題も多く抱えています。将来の希望という点では期待がもてる薬です。



診察時間が近づいたことをお知らせする

約
30分前
メール
サービス

ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!



急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

 真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321 秋田市土崎港中央6-8-3